

研究課題

自立や共生の実現に向けた 特別支援教育と環境教育の 推進における校長の在り方

I 趣 旨

我が国が目指している社会は、互いの人格と個性を尊重し支え合う共生社会である。その実現のために、学校教育においては、自分らしさを大切にしながら、夢や希望をもって「自立する力」を育むとともに、一人一人が仲間として支え合いながら、より良い社会を築いていくとする「共生」と世界中で深刻化する環境問題の課題解決に向かう自然との「共生」の態度を養うことが大切である。

学校においては、障がいの有無に関わらず誰もが相互に尊重し合える共生社会を築くために、障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する必要がある。このような視点に立って、子ども一人一人の教育的ニーズを把握するとともに能力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服できるような指導及び支援を行うことが重要である。これらのことは、特別な教育的支援を必要とする子どもが在籍する全ての学校においてなされるものである。

また、環境汚染や異常気象、自然災害の多発等の地球環境の悪化を受け、環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の地球環境保全の考えに立ち、自然環境の保護・整備や循環型社会の形成に向けた意識改革を図り、かけがえのない地球全体の環境保全に取り組む意欲を高め、能力を育成する環境教育の推進が望まれている。

ここでは、全教職員が「自立と共生」の社会づくりににおける特別支援教育や環境教育の役割について共通認識に立ち、一体となって推進していく校内指導体制の確立や、家庭・地域・関係機関との連携等を進めることが重要となる。

本分科会では、子どもの自立を図るための特別支援教育や、「持続可能な社会」の担い手を育む環境教育を推進するための具体的な方策と成果を明らかにする。

II 研究発表および討議

1 研究発表

「自然環境を大切にする心と実践力を育てる
環境教育の推進における校長の役割と指導性」

小樽地区 小樽市立塩谷小学校 堀 智行



(1) 研究の趣旨

地球的規模の環境問題が存在する中、地球資源の効果的利用や環境負荷の最小限化を図り、全ての人々が健康で文化的な生活を営むことができる「持続可能な社会」の構築が求められている。そのため、今日の環境教育は、「経済」「社会」「文化」なども視野に入れた総合的な視野をもつ、「持続可能な社会」の形成者の育成を期すことが目的となっている。

小樽市校長会では、3か年計画を立て、小樽市の全小中学校における実態を詳しく調査するとともに、それらをもとに環境教育の推進と充実に向けて、校長の果たすべき役割とリーダーシップの発揮はどうあるべきかについて究明していく。

(2) 研究の概要

① 研究テーマ

「自然環境を大切にする心と実践力を育てる環境教育の推進における校長の役割と指導性」

② 研究計画

- 1 年次～全市アンケート調査による実態把握
理論研究
- 2 年次～実態を踏まえた実践・改善・充実
- 3 年次～まとめ・発展

(3) 研究の視点

① 【視点1】学校の教育活動全体を通して取り組む環境教育の推進

- ・多面的・総合的な内容を踏まえる
- ・横断的・総合的に取り組む
- ・学校全体での指導体制づくり

② 【視点2】自然を大切にする心と実践的な態度を育む環境教育の推進

- ・豊かな体験活動の推進
- ・一人一人の学びの充実
- ・様々な関係機関との連携
- ・特色を生かした活動

⇒校長のリーダーシップはどうあるべきか～

(4) 小樽市における環境教育の実践事例

① 豊かな自然環境にあるA小学校の取組

「子どもたちの環境への見方・考え方」を育む環境教育の取組

～教科横断的な学習のつながりを通して～

- ・自然豊かな教育環境を生かし、教科横断的に学び深める環境教育を実施
- ・環境教育単元関連表の作成と活用

⇒教科等で育む力と関連させながら、環境に対する豊かな感受性や見方・考え方を育み、多面的・多角的に働きかける実践力を育てる環境教育の充実へ

② 市街地にあるB小学校の取組

「地域の環境に進んで関わり、自分で行動する力」を育む環境教育の取組

～地域との連携を通して～

- ・1年生—生活科の町探検を通して、地域を知り、自然に親しむ学習
- ・3年生—清掃活動や環境保全のポスターづくり
- ・6年生—地域と連携した「知産志食」（産地を知って、後志を食す）の取組

⇒「地域の環境に進んで関わり、自分で行動する力」を育むための持続可能な環境教育の充実へ

③ 地域の教育資源に恵まれたC小学校の取組

「地域や環境に対する見方・考え方」を育む取組

～ふるさと教育との関連を図ることを通して～

- ・恵まれた地域の教育資源の活用
（ぶどう棚、縄文体験、「松前奴」「雪明りの路」への参加）
- ・地域の教育資源と各教科等との関連表の作成と活用

⇒地域を理解し、「地域や環境に対する見方・考え方」を育む環境教育の充実へ

(5) まとめ

成果と課題

① 成果 環境教育への課題意識の向上・内容の充実

- ・校長のリーダーシップ
- ・活動のねらいの明確化・価値付け継続による改善及び内容の充実
- ・地域等との連携の推進

⇒自然環境を大切にする心と実践力を育てる環境教育の推進に向けての校長の指導性の発揮

② 課題

- ・教育活動全体で環境教育の展開
- ・教職員の資質・能力の向上が必要
- ・各校の特色ある取組の更なる充実

③ 小樽市校長会としての今後の取組

- ・評価・改善サイクルの確立
- ・資質・能力の明確化、児童の変容の把握、活動の焦点化と精選

⇒各校の実態に応じた持続可能な環境教育の推進

④ 質疑

- ・外部連携で校長が果たすべき役割
- ・時数確保のための工夫
- ・小学校での発達段階と中学校へのつながり
- ・全体計画を教職員に意識づけさせる工夫
- ・『特色ある学校づくり』と市町村や中学校区での最低限の統一との兼ね合い

⇒グループ討議でより深めていく

2 グループ討議

(1) 【視点2】「学校全体で組織的・計画的に取り組む環境教育の推進における校長の役割と指導性」

(各グループの発表のキーワードから)

- ① SDGs との関連…持続可能な町づくりとからめて
- ② 意識化…「教師」「子ども」「地域」「保護者」ふるさと教育
- ③ 価値付け 関連付け 意識付け…実践交流
- ④ 擦り合わせ…ゴール設定、ブレない姿勢
- ⑤ どんな資質・能力を？ …ミクロの視点 マクロの視点
- ⑥ ちりばめられた素材…新たな見方（資質、能力）

⇒「持続可能な社会の担い手」としての子どもを育てるという姿（目ざす子ども像）を育て、何をゴールとするか環境教育を経営の方針・重点項目に位置付けている学校…少数

(2) 【視点1】「子どもの自立を図る特別支援教育の推進における校長の役割と指導性」

(各グループの発表のキーワードから)

- ① 共有 ② 専門性 ③ 連携 ④ 包括的な体制
 - ⑤ 校内支援体制・意識改革 ⑥ 強いリーダーシップ
- ⇒特別支援に特化した校内研修…8割が計画・実施
放課後デイサービス等の活用…5～6割が活用

3 全体討議交流

特別支援教育校内支援体制整備、関連機関との連携、教職員の意識改革と専門性向上



(1) 情報提供 北海道小学校長会指名理事

三戸 奉幸 校長

(北海道特別支援学級設置学校長協会会長)

- ① 特別支援学級在籍児童は、毎年600人程度ずつ増えている
- ② 特に「自閉・情緒」と「知的」に顕著
- ③ 通常の学級に在籍し、通級指導を受ける児童も10年で2.4倍
- ④ 新学習指導要領「個に応じた指導・支援」(インクルーシブ教育)
- ⑤ 「合理的配慮」のための授業アイデアー困り感が減る
- ⑥ 教育課程編成の共通理解(通常の学級担任も保護者に説明できるようにする)ー保護者の悩みや相談に乗ることができる。(不安感の軽減)
- ⑦ 「トライアングル」プロジェクトー家庭と福祉と教育の連携

Ⅲ ま と め

【視点1】「子どもの自立を図る特別支援教育の推進における校長の役割と指導性」…特別支援教育

(1) 成 果

目指す共生社会の形成に向け

- ① 経営ビジョンへの位置付け
- ② 幼保小中の連携強化、校内研修の充実
- ③ 組織的な働きかけによる行政・関係機関との連携構築
- ④ 積極的なコーディネート的重要性
- ⑤ 通常の学級に在籍する特別の支援を必要とする児童への効果的な支援

(2) 課 題

- ① 障がいに応じた特別的教育課程の編成・評価
- ② 個々の学習上・生活上の困難を、主体的に改善・克服する力を養う自立活動の指導の充実
- ③ 保護者との連携・啓発
- ④ 地域での切れ目のない支援へ向けた連携の検討
- ⑤ コーディネーターの育成と全教員の専門性の向上

(3) ま と め

- ① 個々に応じた学びと支援の充実を図るカリキュラム・マネジメントの推進
- ② 全教員の資質向上と人材育成、関係機関との連携による組織力向上へのリーダーシップ

【視点2】「自然を大切にする心と実践的な態度を育む環境教育の推進」…環境教育

(1) 成 果

目指す共生社会の形成に向け

- ① 環境教育のねらいを共有させ、育成すべき資質・能力を明確にさせる

② 身近な環境に関わる活動を計画的に具現化させる

③ 社会教育のつながりの中で継続的に活動を展開させていく

④ 地域を愛し、誇りをもつ子どもを育成すること

(2) 課 題

① 教育活動全体での展開を見据えた教育課程編成

② 自然体験を生み出す難しさのある地域での実践

③ 多様な連携や地域資源を生かした中・長期的な活動

④ 教科横断的な取り組み及び小中9年間を見据えた取組

⑤ 教職員の課題意識及び資質・能力の向上

(3) ま と め

「持続可能な社会」の創り手の育成へ向け

① 地域を生かし教科横断的に確かな資質・能力を育む活動へと改善・充実させるカリキュラム・マネジメント

② 教職員の課題意識向上と関係諸機関との連携を生かした組織力向上への力強いリーダーシップ

【研究討議全体のまとめ】

私たち校長には、未来を担う人材づくりに向け、社会に開かれた教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントを行い、人材育成と組織力向上を図りながら、資質・能力を育成する教育活動を実現させ、「自立と共生」の実現を図っていくことが求められている。

「第12分科会に参加して」

小樽市立奥沢小学校 井 村 文 俊

第12分科会は「自立と共生」をテーマに、特別支援教育と環境教育の二つ視点で討議する分科会です。

今回、小樽市校長会で環境教育の提言資料を発表しました。この資料を基に話し合いがもたれましたが、自然豊かな郊外の学校は素材もたくさんあり、生き生きとした実践ができます。一方、街中の学校が環境教育を進めていくことには難しさもあり、どう展開していくのかも大きな課題となっています。

特別支援教育の視点では、今回提言資料はありませんでしたが、特別支援設置校長会の会長にお話を聞きました。グループ討議では、教育と福祉の問題、近年はデイサービスとの関わりが大変難しいという課題が浮き彫りになりました。うまく機能している地域もありますが、デイサービスが民間で運営されているために、学校との連携が課題となっている場合も多くあることがわかりました。

本分科会では、2つの大きな視点がありますが、関連を重視して討議するには難しいと感じました。

大会運営の皆様のご苦勞に感謝申し上げます。